

四日市更生保護女性の会 会長

戸田たづ子さん



更生保護女性の会とは、女性としての立場から、地域の犯罪・非行の予防活動、子育て支援などの活動に取り組むボランティア団体です。

14年間この活動を続ける戸田さんに、活動内容や活動に対する思いをお聞きしました。

安全・安心な地域社会をつくる

更生保護とは、罪を償い再出発をしようとする人たちの立ち直りを導き、助け、再び犯罪や非行に陥ることを防ぐ仕組みです。保護司やBBS会*と共に、私たちは誰もが人として地域に受け入れられ安心して生活できる地域社会をつくる存在です。

活動としては、更生保護施設（帰る場所がない、頼る人がいない人の一時的な宿泊施設）で食事を作って提供したり、受刑者の皆さんが製作した作品・製品の展示・販売をする「三重刑務所 矯正展」を手伝ったりしています。

※生きづらさを抱える若者に兄弟のように寄り添うボランティア団体



ふれあいモールの啓発活動



ダメ、ゼッタイ音頭による啓発



大四日市まつり「みんなで楽しもうお祭りひろば」で挨拶する戸田さん

犯罪予防啓発の一環で、四日市市薬物乱用防止対策協議会と連携し、薬物乱用防止を声掛けする街頭啓発や、踊りで表現した「ダメ。ゼッタイ！」音頭を披露するなど、薬物乱用防止の輪が広がる活動もしています。近年は特に若年層の薬物乱用の広がりが深刻なので、これからもインターネットやSNSを使って周知するなど社会を取り巻く環境の変化に対応しながら、誰もが薬物に陥らないよう未然に防ぐ活動をしていきたいと考えています。

14年間活動を続けてこられた理由

私は、夫が保護司をしていたことをきっかけに声を掛けられ、何か人の役に立てるのであればと、更生保護女性の会に入りました。

「矯正展」で、来場者から「楽しみにしていたよ」と私たちの活動を心待ちにしてくれている声を聞いたとき、「ダメ。ゼッタイ！」音頭を披露する場で、目の前で真似をして一緒に踊ってくれる若者と出会ったとき、自分たちの活動が、少しずつでも社会に浸透していているなど、やりがいを感じます。何より、楽しく活動をしながら地域に関わることができているので、ここまで続けてこられたのだと思います。

一人でも多くの人に知ってほしい

現在の会員数は220人と減少傾向で、今の活動を続けていくためには、やはり人が必要です。

私たちの活動はハードルが高いと思われるがちですが、地区ごとに活動内容は異なり、子育て支援や花壇への植栽活動を行うなど、「できること」を「できるひと」が内容を制限せず幅広く行っています。

更生保護の活動を知って少しでも興味を持った人は、ぜひまちで活動する私たちに気軽にお声掛けください。

10月放送のCTY-FM「よっかいち わいわい人探訪！」でも紹介します。(放送時間は裏表紙へ)